

常なる磐

つねなる いわ

令和2年7月17日(金)号

◇ あたりまえ③

7月6日、3回目の朝会（全校集会）。 児童への話は、「あたりまえ」の続き。

この前の集会では、「あたりまえ」の話をしました。

よいことを「あたりまえ」にするには、少しの頑張り意識が大切でした。そして続けていると、意識しなくても、頑張らなくてもできるようになります。これが「あたりまえ」です。でも、「あたりまえ」には、「よくないあたりまえ」もあります。

たとえば、宿題を忘れてしまった時、前の日にやらなかった時、『いけなかったな』と反省します。反省をし、気持ちを入れ直して、もう一回頑張ればいいのですが、『昨日もやらなかったから、今日もやらなくていいや。』と2日続けて宿題をやらないと、『いけなかったな』という反省の気持ちが、前の日より小さく、小さくなります。そして3日続けて宿題をやらないと、宿題をやらないことが「あたりまえ」になります。これが「よくないあたりまえ」です。

「よいことをあたりまえにする」には、少しの頑張り意識が大切ですが、「よくないあたりまえ」は、やらないこと、手を抜くことで「あたりまえ」になるのです。「よくないことがあたりまえになる」のは、たいへん危険なことです。

そして、「頑張る（やる）」のか「手を抜く（やらない）」のかは、自分で決めているのです。

挨拶をしないしていると、挨拶をしないことが「あたりまえ」になります。靴やトイレのスリッパをそろえないと、そろえないことが「あたりまえ」になります。授業でずっと手を挙げないと、手を挙げないことが「あたりまえ」になります。

毎朝、あなたは、家族に「あたりまえ」に挨拶をしていますか。あなたの「おはよう」の一言で、「元気なのか」「体調が悪いのか」「心配なことがあるのか」家族はあなたの様子が分かるくらい、あなたのことを気にかけてくれていますよ。

「よくないあたりまえ」は、なくしていきましょう。
「よいあたりまえ」を、どんどん増やしていきましょう。

よくないあたりまえは、互いに気をつけながら自浄作用によってなくしていく。

- ・自分の中の「あたりまえ」を増やしていく。
 - ・友の「あたりまえ」に刺激を受け、友の「あたりまえ」を自分の力にしていく。
 - ・学級の「あたりまえ」について考え、集団の「あたりまえ」を増やしていく。
 - ・個や学級の小さな「あたりまえ」が、学校の「あたりまえ」になっていく。
- 「あたりまえ」をたくさん備える子供が集う学校にしていくのが私の願いである。